

はじめに

FUJITA Yoshitaka

藤田 義孝

第20回関西フランス語教育研究会(通称ランコントル)は、2006年3月30日(木)および31日(金)の両日にわたって開催されました。ランコントルは2003年より大阪日仏センター=アリアンス・フランセーズで開催されてきましたが、今年は20周年記念の特別会場として、1日目のシンポジウムと懇親会をル・ポンドシェルにて行いました。今大会では2日間で146名の参加者を迎えて、27のアトリエ、2つのシンポジウム、出版社等による6つの教材プレゼンテーションが開かれ、これまでで最大規模の会合となりました。

ランコントルは毎年、やや抽象的で大きなテーマと具体的なテーマの2つを共通テーマとして設定しています。今年は第1テーマ「外国語の教授、学習、評価のためのヨーロッパ共通参照枠と言語学習記録帳：どのように授業に活かせるか」(« Cadre européen commun de référence pour les langues et Portfolios : de nouveaux outils pour nos cours ? »)に関する10のアトリエと、第2テーマ「講読、作文、日本語訳をどう扱うか」(« Lire, écrire et traduire ? »)に関する7つのアトリエが開かれました。主にこれら2つの共通テーマについて、本誌 *RENCONTRES* 第20号には9本の論考が寄せられました。

また、今年のランコントルでは、広く言語教育という観点に立ち他の外国語教員とも交流し連携をとっていこうという考えから、1日目のシンポジウム「複言語主義：言語教育の発展のために」では、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の各教員をパネリストとして報告および意見交換がなされました。また、2日目のシンポジウム「若手教師が考えていること—現実的展望に向かって」では、若手教員が今の状況をどう捉えているのか、外国語教育の未来のために何が必要か、そのためどんな教員研修が行われているか、といった点について話し合いが持たれました。以上2つのシンポジウム報告も本誌に収録されております。本誌掲載の論考や記事が皆様にとって良い刺激となることを願っております。

今年20回目のランコントルも、皆様のおかげで無事に、そして盛会のうちに終わることができました。20年前、新しいフランス語教育を求めて他のフランス語教員と議論を深めようと始められたランコントルは、いま新しい言語教育を求めて他の外国語教員とも交流を進めようとしています。来年のランコントルでも、各語学の垣根を越えた刺激的な交流や議論が生まれるよう、皆でアイデアを出し合っていきたいと思っております。来年に向けて、私たちと一緒にランコントルの企画運営に携わってくださる方を心よりお待ちしております。